

エコアクション21

2013年 環境レポート

(対象期間:2013年1月~2013年12月)



IFFT インテリアライフスタイルリビング展 2013 (東京ビッグサイト)

作成日 2014年2月21日

Atsukawa 厚川産業株式会社

I. 環境方針

■環境理念

厚川産業は、環境保全は社会に対する企業の責務と認識し、環境負荷の継続的低減に努めることで、環境に配慮した社会づくりに貢献する。

■環境方針

厚川産業は、環境理念に基づき環境活動を着実にする為に、以下に掲げる環境活動を推進する。

1. 環境マネジメントへの取組みを積極的に実行し、事業活動に伴い生ずる環境負荷の低減に努める。
2. 環境保全活動を推進し、環境汚染の予防に努めると共に、環境マネジメント及び環境目標を定期的に見直し、継続的改善を図る。
3. 環境法規、規制、条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守する。
4. 環境パフォーマンスを継続的に改善する為、以下のことについて重点的に取り組む。
 - (1)環境に配慮した製品の開発及び製造プロセスの改善に努める。
 - (2)地球温暖化防止対策として、CO2の削減に努める。
 - (3)資源の有効利用及び廃棄物の適正処理・削減に努める。
 - (4)グリーン購入・グリーン調達に努める。
 - (5)水質汚濁の予防に努める。
 - (6)化学物質の適正管理及び使用量の抑制に努める。
5. リスクマネジメントによる安全管理に努める。
6. 環境方針・環境レポートを公示すると共に、社内や地域に対しての環境コミュニケーションに努める。
7. この環境方針は、関連会社を含む全社員に周知し、理解と協力を要請する。

平成17年3月14日 制定日

平成23年4月1日 改定日

厚川産業株式会社

代表取締役 厚川秀樹

II. 事業概要

1. 事業所名 : 厚川産業株式会社
- 代表者名 : 代表取締役 厚川秀樹
2. 所在地 : 埼玉県吉川市旭10-1 (東埼玉テクノポリス内)
3. 対象範囲 : 本社工場
4. 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
- 責任者 : 専務取締役 厚川賢二 TEL 048-993-2002
- 担当者 : EA21事務局 前期 : 川上理絵 FAX 048-991-0050
- 後期 : 藤井沙矢加 e-mail atsukawa@wonder.ocn.ne.jp
*担当者の退社により 9月から変更
5. 事業内容 木製品加工 主要製品 : 住宅部材
6. 事業の規模
- | | |
|---------|--------|
| 製品出荷額 | 255百万円 |
| 主要製品生産量 | 3559トン |
| 従業員数 | 17名 |
| 工場床面積 | 2,339㎡ |
7. 事業年度 1月～12月

III. 活動スケジュール

活動項目	スケジュール											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
二酸化炭素廃質量の削減												
省(創)電力活動	ウォームビズ			クールビズ			ウォームビズ					
バッテリーフォークの使用削減	バッテリーフォークの使用削減											
照明の適正化	照明最適化運動									太陽光発電 照明のLED化		
生産効率向上(ロス削減)	生産ロス削減活動											
燃料使用量の削減												
エコドライブ、アイドリングストップの徹底	エコドライブ、アイドリングストップの徹底											
営業エリアの見直し、公共交通機関利用	営業エリアの見直し、公共交通機関利用						納品の平準化(計画配送)					
納品の平準化(計画配送)	納品の平準化(計画配送)											
廃棄物の削減												
分別の徹底(表示類見直し)	分別の徹底(表示類見直し)											
歩留りロス削減(作業手見直)	歩留りロス削減(作業手見直)											
加工ミスによるロス削減(作業依頼書見直)	加工ミスによるロス削減(作業依頼書見直)											
クレームの発生撲滅(作業手順見直)	クレームの発生撲滅(作業手順見直)											
梱包レス活動	梱包レス活動											
水道水の削減												
汚濁防止活動	汚濁防止活動											
定期点検の実施(パトロール)	パトロール											
化学物質の削減												
使用量削減/新製品時の切り替え	使用量削減/新製品時の切り替え											
グリーン購入												
購入時のグリーン購入推進	購入時のグリーン購入推進											
環境配慮製品の開発・販売促進												
環境配慮製品の開発を推進	環境配慮製品の開発を推進											
環境配慮製品の販売促進	環境配慮製品の販売促進											

IV. 主要な活動内容

取組み計画	主な取組み	評価	次年度の取組み
電力の削減	・ 移動式リフター導入によりフォークリフト使用を削減	○	
バッテリーフォークの使用削減	・ 作業エリアのレイアウト変更 → 作業の見直しによる近接化	○	作業のグループ化
照明の最適化	・ 作業場・倉庫の照明見直し(LED化) ・ 照明の間引き	○	作業内容に合わせた照明レイアウト
燃料使用量の削減	・ エコドライブ、アイドリングストップの徹底 → 出入り業者の方にも協力依頼しています	○	継続実施
エコドライブ、アイドリングストップ	・ 積載効率向上によるトラック便数削減 → 専用ラックによる積載効率アップ → 生産情報の先取りによる計画配送 → 納入量(ロット)の最適化	○	継続実施
納品の平準化/特急便削減	・ 追加注文の指示書の見直し → 積込ミス削減(特急便削減)	△	納入先との継続取組
		○	継続実施
廃棄物の削減	・ 仕入先との共同改善 → 仕入先を巻き込んだ梱包材使用量削減	○	継続実施/水平展開
梱包材削減・無梱包化推進	・ 納入先との共同改善 → 生産情報の活用による梱包削減 → 専用ラックによる無梱包化	○	継続実施/水平展開
歩留り改善	・ 製品寸法の見直し → 納入先への提案による歩留り改善	△	納入先との継続取組
水道水の削減	・ 水質汚濁防止に努めた(水→粉)	○	継続実施
清掃・設備洗浄の改善	・ 使用量の削減 → 増員以上に使用量の増加	×	原因調査
定期点検の実施			
化学物質の削減	・ 化学物質の使用量削減 → 塗装方法の変更(自然塗料の積極使用)	○	作業内容見直・代替え品による削減の継続推進
使用量削減			
グリーン購入	・ グリーン購入対象品目の優先購入 → 塗料の変更	○	継続実施
グリーン購入の推進			
環境配慮製品の開発・販売促進	・ 製品開発時の環境配慮実施 ・ お客様への環境配慮製品の紹介	○	継続実施
環境配慮製品の開発を推進			
環境配慮製品の販売促進			

評価基準: 達成率100% ○、90%以上△、90%未満×

<省梱包活動事例>



輸送テスト



破損対策



V. 環境目標とその実績

1. 環境目標

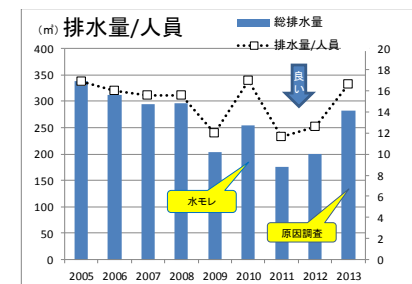
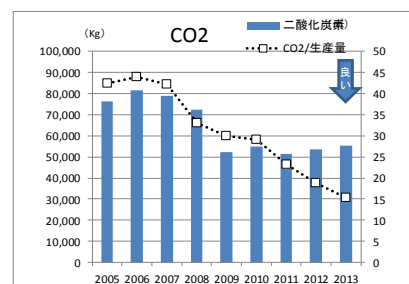
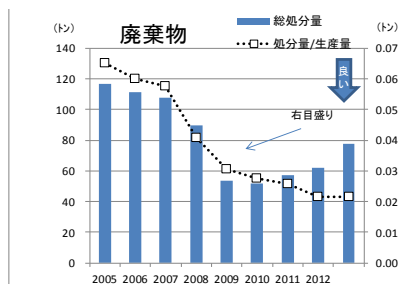
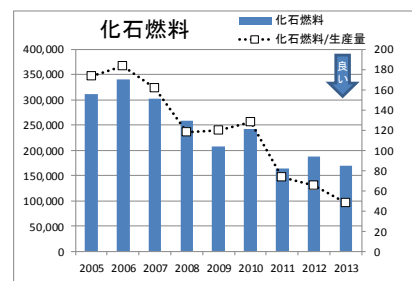
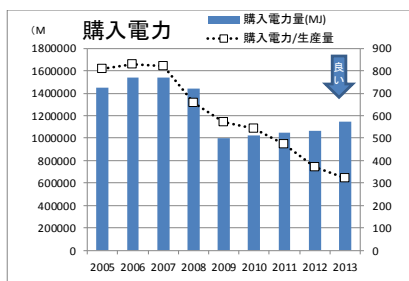
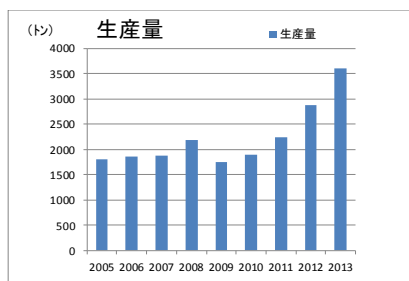
削減項目	単位	基準年度	削減目標						
		2005年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
廃棄物排出量 (排出量/生産量)	トン	0.065	5%削減 0.062	6%削減 0.061	7%削減 0.060	8%削減 0.060	9%削減 0.059	10%削減 0.059	11%削減 0.058
二酸化炭素排出量 (排出量/生産量)	kg-CO2	42.47	5%削減 40.35	6%削減 39.92	7%削減 39.50	8%削減 39.07	9%削減 38.65	10%削減 38.22	11%削減 37.80
排水量 (排水量/従業員数)	m ³	16.9	5%削減 16.1	6%削減 15.9	7%削減 15.7	8%削減 15.5	9%削減 15.4	10%削減 15.2	11%削減 15.0

※環境目標は基準年度に対して年1%削減

2. 取組実績

項目		単位	基準年度	削減実績						
			2005年	2010年	2011年	2012年	2013年	目標値	達成率	評価
廃棄物 排出量	廃棄物等総排出量 (排出量/生産量)	トン	116.7	52.0	58.06	61.88	78.34	107.40	137%	○
			0.065	0.028	0.026	0.022	0.0221	0.06	271%	○
二酸化 炭素 排出量	購入電力 (購入電力/生産量)	MJ	1,450,928	1,024,817	1,052,193	1,066,594	1,145,844	1,334,854	116%	○
			808.2	543.0	471.6	372.1	322.0	743.5	231%	○
	化石燃料 (化石燃料/生産量)	MJ	311,784	241,387	163,672	187,382	170,068	286,841	169%	○
			173.67	124.17	72.53	65.37	47.79	159.78	334%	○
二酸化 炭素 排出量	二酸化炭素排出量 (二酸化炭素/生産量)	kg-CO2	76,240	55,062	51,488	53,629	55,502	70,141	126%	○
			42.47	28.32	22.82	18.71	15.59	39.07	251%	○
排水量	下水量	m ³	338	254	175	201	282	311	110%	△
	(排水量/従業員数)		16.90	16.76	11.43	12.56	17.63	15.55	88%	×

※購入電力排出係数は、0.378kg-CO2/Kwh採用



VI. 環境関連法規等への違反・訴訟の有無

環境関連法規は環境関連団体及び関係機関のホームページ等で確認し、結果は下表の通りでした。

主な適用法規	活動及び対策	違反・訴訟の有無
<水質関係> ○小規模事業所排水指導指針 (昭和60年12月25日埼玉県)	油水分離層、沈殿槽などの簡易な排水 処理施設 → 設置済み 保守点検結果:異常なし	無
<騒音・振動関係> ○騒音規制法 ○振動規制法	集塵機消音対策 → 2011年7月消音対策終了 → 測定結果:基準値内 コンプレッサー等振動の少ない設備に変更済 →基準値内	無
<廃棄物関係> ○廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物保管所の設置 表示類の見直し マニフェストにより適正に処理 4/1 産業廃棄物管理票交付等状況報告書提出	無
<消防法(危険物)> ○消防法 ・防火管理者 ・危険物保安監督者、危険物取扱者	消防所長に届出済み 乙種四類取扱資格者あり 危険物倉庫の維持管理 消火器置場の見直し	無
<労働安全衛生法> ○労働安全衛生法 ・安全衛生推進者等を選任すべき事業所 ・作業主任者の選任	安全衛生推進者の選任→資格者(2名) 木工加工用機械作業主任者の選任(3名)	無

- ・ 環境関連法規、条例、その他の規制に対して違反はありませんでした。また、訴訟等も同様ではありませんでした。

VII. 代表者による総合評価

環境活動が特別の活動で無く、通常の生産活動や改善活動の中に取り込まれていることが、報告書の内容から窺い知ることができます。社会的な活動としては、工場内の照明をLED照明に変更、塗装製品に対し、有害物質を含まない自然塗料を積極的に使用するなど、現代社会が抱える環境問題にも貢献することが出来ております。

今後の課題としては、単年度計画だけでは無く、大きな環境活動テーマを持った環境活動中期計画に取り組むことも必要かと思われます。

VIII. 今後の取組

- 生産内容や量の変化に対して敏感に対応し、生産活動でのロスやムダを削減する取組を推進する。
- 中長期テーマの発掘。